資料1

つくる大切さ。まもる大切さ。

TEPCOのECO

「東京電力自然学校」に関する取り組みについて

平成23年2月10日

東京電力株式会社

いつもの電気、もっと先へ。

東京電力

TEPCO

「東京電力自然学校」とは

生物多様性の保全への取り組み

- 自然資産などを活用したコミュニケーション活動
- 生物多様性に配慮した設備作り
- 調査・研究への取り組み

統一名称の下で活動を展開（2008年４月～）

豊かな自然、育む心を次世代に。
東京電力自然学校

＜活動理念＞

当社が関わる自然資産を活用し、多くの皆さまとの対話を通じて自然を守り、育む心を養い、心豊かで自然と調和した持続可能な社会を実現。

＜主たる活動＞

①自然環境保全、調査・研究

②自然体験会の実施

③人材育成

具体的な取り組み-1(1)：自然環境保全、調査・研究

(1)尾瀬・戸倉における取り組み

＜尾瀬国立公園と当社社有地の概要 ＞

◆半世紀にわたる自然保護・管理

・木道の敷設・管理(1958年～):約20km(全体の約30%)

・アヤメ平の湿原回復(1969年～):約0.9haが回復(全体の約90%)

・ブナ植林活動(1997年～):約7haに3.5万本植林

◆フォレストック認定(**2009年8月**)

・上記の生物多様性に関する取り組み、および当社が保有する尾瀬・戸倉森林のCO_2吸収量(10,291CO_2-t(年間)※)などが評価され、フォレストック認定の第１号を取得。

※一般家庭約1,900世帯に相当

(2)ビオトープ作りの推進

＜千葉火力発電所 ビオトープそが＞

◆火力発電所の敷地に生物多様性へ配慮した緑地を創出

・千葉・横浜火力発電所などにおいて、発電所緑地の環境整備手法に関する調査研究活動を実施。(1997年～)

・その成果を基にビオトープを整備。

→千葉・横浜火力発電所が「生物多様性保全につながる企業のみどり100選」に選定。(2010年12月)

具体的な取り組み-1(2)：自然環境保全、調査・研究

(3)当間高原(新潟県十日町市)における取り組み

◆「環境アセスメントの基礎調査」(1995年～)

⇒環境アセスメントの基礎調査として、フクロウやカエル類の生態調査を実施。

◆「里山再生プロジェクト」の推進(2010年～)

⇒トキが舞う里山環境整備を目指し、里山荒廃を防ぐ活動を展開。

・当間における調査研究成果を活かし、ＮＰＯとの交流を通じて水辺(田んぼ)環境の整備手法開発を推進。

◆「森のホール・水辺のホール」の設置(2010年9月)

⇒“あてま 森と水辺の教室 ポポラ”の活動拠点として設置。(安藤忠雄氏設計)

・当間の自然環境に関する展示や自然体験プログラムなどを提供。

〈森のホール〉

〈水辺のホール〉

具体的な取り組み-2：自然体験会の開催

(1)当社設備に関する自然環境資産を活用した自然体験活動の展開

→次世代を中心に展開

＜2010年の新たな取り組み＞

◆海域調査の知見を活用した取り組み

・“潮だまり”における海の自然体験活動の実施

〈横須賀火力発電所〉

◆新たな電力設備での取り組み

・変電所内で初めて敷地内のビオトープおよび竹林を活用した自然体験活動の実施

〈新木更津変電所〉

(2)専門施設での情報発信の展開

◆群馬県片品村が管理する“尾瀬ぷらり館”内に、尾瀬・戸倉の動植物の生態や当社の自然保護活動に関する展示と、自然体験会の拠点となる「東京電力尾瀬・戸倉教室」を設置。(2009年4月)

→尾瀬・戸倉教室への来訪者は約5万人(累計)

〈尾瀬ぷらり館〉

〈尾瀬・戸倉教室〉

具体的な取り組み-3：人材育成 (自然学校中核者の育成)

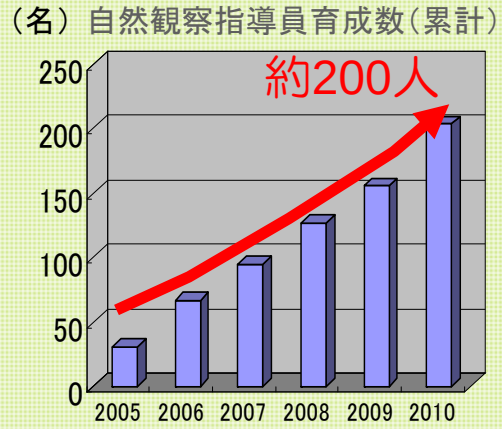
(1)自然学校活動の核となる人材（自然観察指導員）を育成

◆自然観察指導員の育成

・2005年から「自然観察指導員育成研修」を展開し、第一線機関での自然学校活動の核となる自然観察指導員を約200人育成。(年間50人の育成を継続実施予定)

・指導者の中から希望者を対象に一層の能力向上を目指した「ステップアップ研修」を展開(2010年度～)し、独自で自然体験活動の企画立案から実施まで対応できる人材“エキスパート”を育成。

⇒現在6名(2013年度までに40名を育成予定)



◆裾野を拡げる活動

・社員の家族を対象とした自然体験会の開催。(2009年～)

・2年目の大学卒社員を対象とした尾瀬体験会の実施。(2010年～)

＜社員の家族を対象とした冬の尾瀬・戸倉雪原教室＞

(2)教職員研修の開催

・当間や発電所にて、教職員を対象にした環境教育研修の実施。

→1999年度～2009年度の実績(累計)：59回 1,916人

今後の展開

◆COP10の機運を捉え、NPOと連携するなど、自然学校の活動の幅を拡大

(1)<u>ＮＰＯとの連携強化</u>

◆地域に根ざした自然体験活動の展開

→NPOと連携して各地域の自然環境を踏まえた自然体験プログラムを開発し、それぞれの地域に根ざした活動を展開。

◆NPOとのネットワーク構築（2011年度～）

→NPOが取りまとめを予定している「自然学校白書(仮)」の編纂作業への支援を通じて、自然体験活動をNPOと協働で実施できるネットワーク構築を図る。

(2)<u>これまでの活動から得た知見の活用</u>

◆「環境教育プログラム」の開発と展開（2011年度～）

→ (社)日本環境教育フォーラムと共同で「環境教育プログラム」を開発し、教職員の方々などを対象とした環境教育研修などで活用。

以　上